

第2学年1組 音楽科学習指導案

指導者 勝見典子

1 題材名

和音の響きや和声の進行の特徴を感じ取って、旋律をつくろう

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A 表現 (3) 創作 ア 言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。

[共通事項] ア 旋律 テクスチャ リズム 速度

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(1) 題材観

本題材では、ハ長調の主要三和音 (I IV V) の響きと流れを感じ取りながら、その構成音から音を選んで旋律をつくる活動に取り組む。生徒が音楽のつくり手となり「どの音を選択しどうつなげていくか、どんなリズムを選択していくか」と試行錯誤する中で、基本となる和音が I IV V という3つであっても、選択する音やリズムによって生み出される音楽は様々な表情をもち、限りなく広がっていくという面白さを実感させたいと考えている。

生徒は中学1年時に、簡単なリズム譜に自由に選択した音をあてはめていくという無調性の「旋律づくり」に取り組んでいる。この時点での旋律はただ漠然とした音やリズムの羅列に留まりがちであったが、生徒たちは自分がつくった音楽に愛着をもち、作品として演奏することを楽しんでいた。今回2年生では、ハ長調の I → IV → V → I (C → F → G7 → C) の和音の進行を基本に調性を感じながら旋律づくりを行う中で、同音進行、順次進行、跳躍進行等の手法を知り、それらが生み出す音楽的効果を感じ取れるようにしていくことにも取り組んでいく。また、中学3年時には、コード進行に代理コードやセブンスコードなども取り入れ、旋律を重ね合わせたり、形式、構成を工夫したりするなどして作品がより音楽的で豊かな表現になるように授業を展開していきたいと計画している。

今回の授業に際して生徒の実態を調査したところ、和音や和声の学習については、小学校高学年で I IV V (V7) を取り上げ「和音のもつ表情を感じ取る」という学習をしてきていることがわかった。しかしながらその学習の定着が薄いため、もう一度小学校での学習を振り返る活動から授業を始める必要がある。小学校では、和音や和声を感覚的に捉えるに留まっていたが、今回は、和音のそれぞれの特性や流れ(和声)を意識して自らが音楽をつくるという活動に取り組むことで、実感を伴った理解につなげていきたいと考えている。また、授業の最後には、それぞれがつくった旋律を記譜し、作品として残すようにする。生徒は自分の楽譜を見返した時「こんな表現にしたいから、こういう進行を選択したんだ」というように、旋律に自分の意図したものが表れていることに改めて気づくはずである。また、記譜した作品を友達と共有する場を設ける。自分がつくった音楽を友達が理解し演奏してくれるという経験は、生徒に大きな喜びと自信をもたらすであろう。

本題材での経験が、次に他者が作曲した作品を演奏する時の作品解釈にもつながり、豊かな表現を生み出す力につながっていくことを願って授業に取り組んでいきたい。

(2) 生徒の実態 (男子16名 女子18名 計34名)

本学級の生徒は、素直に教師の指示を聞くことができ、授業においても前向きで落ち着いた態度で臨むことができる。音楽の学習でも、どの領域・分野の活動にも一生懸命に取り組んでいる。

本題材に取り組むにあたり、これまでの「音楽づくり・創作」の学習状況について調査した。

小学校時の「音楽づくり」では、低学年時に声や身の回りの音、楽器などを使っての音遊びや、短い言葉やリズムを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動、中学年では簡単なリズムに音をのせ短い旋律をつくる活動やリズムアンサンブルをつくる活動、高学年では「音階」や「和音」の学習と関連させて短い旋律をつくる活動を行ってきた。本題材で扱う「旋律づくり」と特に関係のある具体的な指導内容について、本校へ入学してくる2つの小学校より聞き取り調査を行った。

① 本校へ入学してくる2つの小学校(A校・B校)における学習状況

ア. 音楽づくりについて(主に「旋律づくり」の学習)

○3年生

「ラドレの3音を使ってのおはやしづくり」

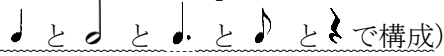
簡単なリズム(4分の4拍子 2小節  で構成)に音をのせて短い旋律をつくる。

記譜をする。

リコーダーで旋律をふき、友達の旋律とつなげていく。

和太鼓でリズム伴奏をつけて、演奏を楽しむ。

○4年生 「ミソラドレの3音を使ってのおはやしづくり」

簡単なリズム(4分の4拍子 2小節  で構成)に音をのせて、短い旋律をつくる。

記譜をする。

リコーダーで旋律をふき、友達の旋律とつなげていく。

リズム伴奏をつくり、旋律と合わせ演奏を楽しむ。

○3・4年 「歌唱曲の副次的旋律づくり」

和音の構成音の中から一つ音を選んで2小節の簡単な旋律をつくり、主旋律と合わせて歌ったり、リコーダーで演奏したりする。

○6年生 「星の世界」 音楽のまとまりを感じ取る学習の発展的取組 ※A校のみ

ハ長調 4小節の旋律づくり リズムは限定 「星の世界」の旋律の特徴を参考につくる

Aグループ ソで終わる旋律をつくる

Bグループ ドで終わる旋律をつくる

AとBの旋律をつなぎ「音楽がつながる感じ、終わる感じ」を感じ取らせながらリコーダーで演奏する。

イ. 和音、和声の学習について

前述したが、A校B校どちらの小学校でも中学年では、和音の構成音の中から一つ音を選んで簡単な副次的旋律をつくり主旋律に重ねて演奏するという学習をしている。中学年では和音ということには触れず、「ここに示された音の中から好きな音を選びましょう」と投げかけ、構成音の中のどの音を選択しても主旋律と響き合う心地よさを感じ取らせている。高学年では「和音の美しさを味わおう」という題材で、ハ長調とイ短調のIIVVの響きを感じ取りながら合唱や器楽アンサンブルを行っている。

上記の学習状況を踏まえ、現時点で学習したことがどれくらい記憶に残っているかを生徒に確認したところ、リズムアンサンブルや音を素材とした即興演奏など他の音楽づくりについては比較的よく覚えており現在の学習に活かされているが、旋律づくりや和音の学習については、ほとんどの生徒が覚えておらず、学習の定着が薄いことがわかった。

② 中学校での学習状況

ア. 1年生次の創作

○「旋律づくり」ステップ1

簡単なリズム譜に自由に選択した音をあてはめていくという 無調性の旋律づくり。

○リズムアンサンブル

○ボディーパーカッション

イ. リズム聴音

本校では、リズムに慣れることと読譜力を養うために毎時の導入時に常時活動として「リズム聴音」を行っている。多くの生徒が「リズム聴音」を楽しんでおり、様々なリズムに慣れてきていると同時に、徐々に聴力、記譜力、読譜力も身につけてきている。

今回の学習では、ここで聴き取ったリズムパターン3種類を基本リズムとして提示し、生徒が自分に合ったものを選択し、そこに音のをせて旋律をつくっていくようにする。

【考察】

本題材の学習を進めるにあたっては、導入時に小学校時に取り組んだ和音や和声の学習を思い起こさせる必要を感じた。

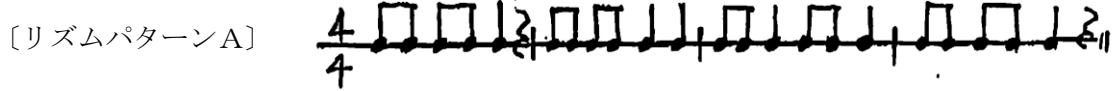
小学校時は「響きを感じ取る」という感覚に訴えた学習が主であったので、中学校では音階表やコード表を提示し、I IV Vの音階の中での位置を視覚的に確認し、どのように3音が重なっているかなど理論面からも捉えさせていきたい。また、I IV Vの響きの流れを聴きながら、それぞれの響きがもつ特徴を感じ取るなどして和声感を養っていきたい。

旋律をつくる際、今回のI IV Vの構成音の中から音を選択するという活動は、小学校での取り組みの延長上にあり、生徒は抵抗感をもたずに活動に入っていけると考える。また、今回はランダムに音を選択するという漠然とした旋律づくりではなく、思いや意図を旋律に表わしていくようにするため、同音、順次、跳躍進行を取り上げる。そこで、今回の学習でも生徒が抵抗感なく学習が進められるように〔グレード制〕（スモールステップ）を取り入れて学習を進め、自分の力や思いに合った手法を使っていくことができるようにしていきたい。

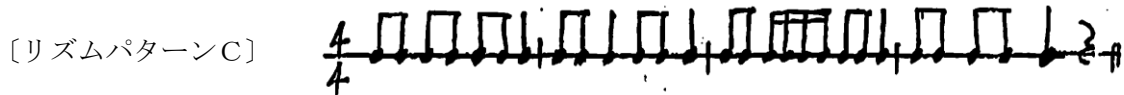
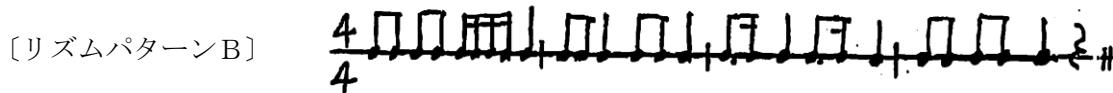
(3) 指導観

① リズムづくり (常時活動の運用)

前述したように、本生徒は毎時間の授業の導入時に「リズム聴音」に取り組んでいる。今回もこの聴音を実施し、ここで聴き取ったリズム (4分の4拍子、4小節) に音をあてはめ、旋律をつくっていくようにする。旋律づくりに向け、本題材に入る少し前からリズムパターンを蓄積し、その中から、生徒が自分にあった好きなリズムを選択できるようにしていく。



(比較的単純なリズムで音楽づくりに苦手意識をもっている生徒向け)



リズムパターンはあくまでも基本であり、創作の過程において、つくり手の意図によって変更してよいものとする。

② 旋律づくり

ア. 導入

導入は小学校の復習を兼ね、I IV Vの和音とは何か、またその響きの特性を感じ取らせる活動から始める。まず、ハ長調の音階表を提示し、I IV Vの和音がどの音の上にあるかを視覚で捉えたいうで響きを聴かせ耳に馴染ませる。次に、和音をつなぎI→IV→V→Iの和音の流れを聴かせることで、I (落ち着き・解決)、IV (発展・次に向かう) V (緊張・戻りたい) というそれぞれの特徴を感じ取らせるようにしていく。ここで、小学校で学習した「茶色の小びん」や「小さな世界」、生徒に人気のある曲「空も飛べるはず」の一部を例に取り上げ、どれもI→IV→V→Iという和音進行が基本となり旋律ができていることを知らせる。I→IV→V→Iという同じ和音進行であっても、そこにのせていく旋律によって (あてはめていく音によって) 色々な音楽が生まれるのだということに生徒は気付くであろう。「I IV Vこの3つの和音を使えば、自分にも簡単にオリジナルの音楽が作れるかもしれない」という動機をもたせ、いよいよ旋律づくりに取り組んでいくようにする。

イ. 旋律をつくるための手法を身に付ける

「旋律づくりに挑戦するぞ」という意欲が高まっても、いざ創作を始めると、どのように音を選びリズムにあてはめていったらよいかわからなくなる生徒が多くでてくることが予測される。そこで、スモールステップの学習を取り入れ、旋律づくりの手法を以下の〔グレード5級〕から〔グレード1級〕に分け、段階的に学んでいけるようにする。演奏には誰もがすぐに演奏できるということで、アルトリコーダーを使用する。

[グレードごとの内容]

グレード	学 習 内 容
基 本	I→IV→V→Iの和音の伴奏に合わせ、選択したリズムに和音の1番下の音(根音)をのせて演奏する。(同音進行)
グレード5級	和音の中から1小節ごとに1つだけ選んで演奏する。
グレード4級	和音の中の音から自分が好きな音を選び、自由に音をつないで演奏する。
グレード3級	グレード4級でつくった旋律の一部に、経過音を入れて順次進行をつくり出し、演奏する。
グレード2級	グレード3級でつくった旋律の一部に、3度以上離れた音へ移動する跳躍進行を入れて演奏する。
グレード1級	グレード2級までにつくった旋律をさらに自分の思いや意図するものになるよう、音やリズムを入れ替えて、旋律を完成させる。

グレード2級まで進んだところで、もう一度、導入時で扱った「茶色の小びん」等を聴くようにする。生徒は旋律の中に同音・順次・跳躍といった進行が使われていることに気付くとともに、それらが醸し出す雰囲気を改めて実感するであろう。これを手がかりに、自分の思いを表現するにあつた進行を使い、さらに速度等の工夫をこらしながら作品を完成させてほしいと願う。なお、グレード3級、2級については必ずしも取り入れなくてはいけないというのではなく、試しながら取捨選択するようにしてよいものとする。学習を進めるにあたって、生徒が音やリズム、速度等を自由に試したり、探ったりしながら主体的に活動できるように、時間と場の確保をしたい。

ウ. 記譜・作品発表

生徒がつくった旋律については記譜し、全て作品として残すようにする。また、つくった作品を演奏する際には楽譜をTVに写し、みんなで楽譜を観ながら演奏を聴くようにする。生徒は自分のつくった旋律を記譜することで、すでに楽譜には自分の思いや意図が表れていることを実感しているはずである。友達楽譜を見たり、楽譜を見ながら一緒に演奏したりすることで、その友達がどのような意図をもって旋律をつくったかについても感じ取ることができるようになるのではないかと考える。演奏後、互いの作品についての感想を述べ合うことで、多様な思いが多様な音楽表現を生み出すことを実感させ、今後の表現活動へ生かそうという意欲を喚起し授業を終わりにしたい。

3 題材の目標

和音の響きや流れを感じ取り、自分の思いや意図をもって旋律をつくり、記譜をする。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 和声の特徴に関心をもち、音の重なりを感じ取りながら、主体的に取り組もうとしている。	和声の特徴を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって表現しようとする工夫している。	和声の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能(課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方など)を身に付けて旋律をつくっている。
② 和音進行の特徴に関心をもちそれらを生かして短い旋律をつくる学習に、主体的に取り組もうとしている。		

5 研究の視点について

視点1 9年間を見通した学び方の共有

○揭示資料の活用

中学校での創作（旋律づくり）は、学習指導要領A表現（3）アに「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」と示されており、その中で、旋律をつくる手掛かりの一つとして、本題材で取り組むコード（和音）進行を基にして、それに合う旋律をつくることがあげられている。中学校での旋律づくりは、和音や和声の学習との結びつきが一層強くなり、小学校時に養った和音の響きの感覚を基盤に、理論面からも学習を進めていく必要がある。そこで今回は、コード表等の資料を揭示し授業の中で活用していくようにする。

前述の実態調査で、小学校での和音の学習はなかなか身に付きにくいという現状を述べた。その理由として、小学校ではまず和音や和声に関する感覚を養うことを優先し、理論面ではあまり深く掘り下げないということが考えられる。そこで、今回揭示する資料については、小学校でも同じ資料を作成し、授業の中で簡単に活用した後、常に子どもの目に触れる場所に揭示しておくようにしてみてもどうか考えた。例えばIIVVの和音が音階のどの位置にあるものなのか、聞くだけでは忘れがちであるが、常に目に留まる場所に資料が揭示してあり、機会あるごとに学習したことに立ち返らせることができれば、学習の定着率も上がり中学校での学習へもスムーズに移行していくことができるのではないだろうか。

今回の授業では、こうした小学校でも中学校でも活用できる資料を作成し、授業での使用を試みることにする。

○スモールステップを大切にした指導

本研究においては、小学校から中学校までの9年間を見通しどの時点でどのような力をつけさせたかを明らかにし、子どもたちが無理なく学習を積みあげていくことができるよう、スモールステップの視点を大切にした指導計画を立てる必要があると考えている。

今回の「旋律づくり」では、何もないところからいきなり音楽をつくるのではなく、小学校で経験してきた和音の構成音から音を選び旋律をつくるという方法を取り入れ、抵抗感なく学習に入っていけるようにした。さらに、中学2年生という段階では「全体の見通しをもって、自分の思いや意図を旋律に表す」ということにねらいを置き、より音楽的な作品にしていきたいと考えている。そのために新たな手法(同音・順次・跳躍進行)を学ばせていくのだが、いきなり全てを教え込むのではなく〔グレード制〕(スモールステップ)を取り入れ、生徒が自分の力に合ったものや思いに合ったものを段階的に学び、使っていけるようにしたい。これは、中学3年生で行う、代理コードやセブンスコードなどを取り入れたり、旋律を重ね合わせたりして旋律をつくる学習への足掛かりとなる取り組みでもある。

★今後の試み

今回の授業を考えていく中で「小学校の音楽づくりの学習でつくった旋律を記録に残し、中学校ではその旋律に改良を加えて新たな作品をつくってみてはどうか」という考えが浮かんできた。生徒にとって、小学校時の作品を見返すことは過去の学習を思い出す手掛かりとなるであろうし、過去の自分を懐かしむとともに、新たなものをつくりだそうという意欲にもつながるであろう。幼い時につくった作品に、今新たに学んだ手法で改良を加え作品を豊かに変化させていくことで、自分の歩んできた学習の軌跡が見えてくるはずである。小中連携の研究に取り組んでいる今だからこそ、新たな試みとして取り組んでみたい。

6 題材の指導計画（3時間計画）

時	○学習内容 ・主な学習活動
(8分) 常時活動	「リズム聴音」 ・ピアノのGの音のみで演奏されたリズムを聴き取り、記譜する。 (ト音記号表記・四分の四拍子・四小節・ハ長調)

時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第1時	<p><ねらい>和音の特徴を知覚し、和声の進行を感じ取りながら演奏する。</p> <p>○常時活動（リズム聴音）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四分の四拍子、4小節のリズムを聴き取って記譜する。 ○今までに「リズム聴音」で聴き取ったリズムから、自分の好きなリズムを選択する。 ○I→IV→V₇→I（C→F→G₇→C）の和音進行を聴く（復習）。 <ul style="list-style-type: none"> ・和音のもつ特徴を知覚し、和声の進行を感じ取る。 * I…落ち着き・解決 IV…発展・次に向かう V…緊張・戻りたい ○「茶色の小びん」を聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・和音の流れを感じ取り、旋律の動き（進行）にも注目して創作の参考にする。 ○I→IV→V₇→I（C→F→G₇→C）の和音の伴奏に合わせて、聴音したリズムに和音の1番下の音（根音）をのせてアルトリコーダーで演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・同音進行の特徴を感じ取る。 ○和音の中の音から1小節ごとに1つだけ選んでリズムにのせ、演奏する。（一斉演奏）グレード5級 <ul style="list-style-type: none"> ・根音で演奏した時との違い（音の広がりや伸びやかさ）を感じ取る。 ○和音の中の音（構成音）から自分が好きな音をいくつか選び、リズムにのせて演奏する。ペアで違う音を選んで演奏する。（同じ音になる部分があってもよい）グレード4級 <ul style="list-style-type: none"> ・旋律が重なったとき、気持ちがいい音の響き（ハーモニー）を感じ取る。 ○グレード4級でつくった旋律をもとに、1小節に1～2カ所、隣（2度）の音に入れ替えてみる。グレード3級 <ul style="list-style-type: none"> ・変えたいと思った小節だけ入れ替てもよいし、全ての小節を入れ替えてもよい。 ・記譜する。 ・順次進行の特徴を感じ取る。 ・音のつながりやなめらかさを感じ取る。 ・ペアの互いの音が混ざるとき、気持ちのよい響き（ハーモニー）になるように考えて音を入れ替えて工夫する。 	<p>和音の特徴に関心をもち、音の重なりを感じ取りながら、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関】①</p> <p>和音進行の特徴に関心をもち、それらを生かして短い旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関】②</p>

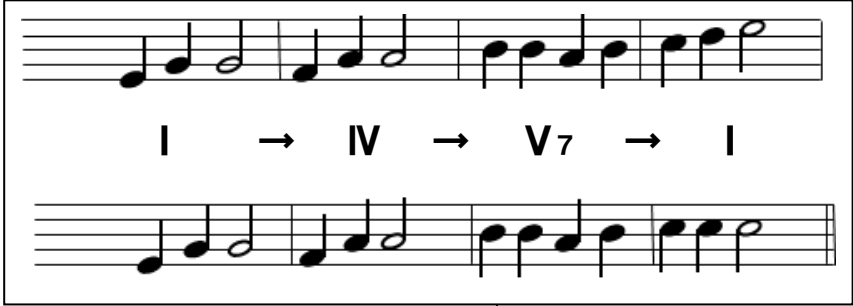
<p>第2時 (本時)</p>	<p><ねらい>和音の特徴を知覚し、和声の進行を感じ取りながら、自分が和音にふさわしいと思う旋律を記譜し、2人一組で演奏する。</p> <p>○常時活動（リズム聴音）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4分の4拍子、4小節のリズムを聴き取って記譜する。 <p>○「茶色の小びん」を聴く。</p> <p>○グレード3級でつくった旋律に、1小節1～2カ所、別の音（3つ以上離れた音など）を取り入れてみる。グレード2級（跳躍進行）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変えたいと思った小節だけ入れ替えてもよいし、全ての小節を入れ替えてもよい。 ・音を入れ替えて演奏してみて、その隣の音なども変えたいと思ったら、別の音に変えてもよい。 ・記譜する。 ・ペアで互いが混ざる音をよく聴いて、和音の中の音を元にしながら、自分が気持ちいいと思う他の音に入れ替えて変化させるなど工夫する。 <p>○ペアでアンサンブル演奏する。</p> <p>○ペアで練習して発表する。</p> <p>○友だちの発表を聴いて、学んだところや思ったことを自分の創作に生かして、グレード1への見通しをもつ。</p>	<p>和声の特徴を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって表現しようと工夫している。</p> <p>【創】</p>
<p>第3時</p>	<p>○常時活動（リズム聴音）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4分の4拍子、4小節のリズムを聴き取って記譜する。 <p>○曲想を考えてアンサンブル演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時につくった旋律を、さらに自分の思いや意図するものになるよう、音やリズムをどんどん入れ替えて、旋律を完成させていく。（同時進行・順次進行・跳躍進行の特徴をどの小節で生かすか考えて音を入れ替える。）グレード1級 ・和音進行（ピアノ）をよく聴いて、和音の中の音をもとにしながら、自分が和音に合うと思う他の音の一部替えて変化させる。 <p>*『進行の特徴』の資料を参考にする。</p> <p>○ペア同士でアンサンブル演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲がある程度できたら、旋律に合わせて、どちらかのペア（交代でもよい）が和音の一番下の音（根音）を一緒に演奏する。 <p>○練習して4人で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聴いて、学んだところや思ったことを自分の創作に生かす。 	<p>和声の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（課題に沿った音の組み合わせ方、記譜の仕方など）を身に付けて旋律をつくっている。【技】</p>

7 本時の学習 (2 / 3)

(1) 目標

和音進行を感じ取って、その特徴を生かしながら旋律をつくる。

(2) 展開

時配	○学習内容・学習活動	○教師のかかわり◆評価基準〈評価方法〉
2 8	○常時活動 ・「コンニチハコーラス」 ・「リズム聴音（ト音記号・4分の4拍子・4小節・G音）」をする。	○創作の手がかりになるようなリズムを聴き取らせる。
和音進行の特徴を生かして、自分だけのオリジナル曲をつくろう。		
5	○「茶色の小びん」を聴く。 ・旋律をよく聴き、和音進行の流れや和音のもつ特徴を感じ取って、創作の参考にする。	○創作の手がかりになるよう、「茶色の小びん」の旋律に注目させ、上行や下行について気付くよう支援する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 茶色の小びん </div>		
		
20	○ グレード2級 グレード3級でつくった旋律に、1小節1～2カ所、別の音（3つ以上離れた音など）を取り入れてみる。 ・和音進行をよく聴いて、和音の中の音をもとにしたがって、自分が和音に合うと思う他の音の一部変えて変化させる。 ・ 音の進行の特徴 （揭示）を参考にして、自分の創作に生かす。	○揭示した 音の進行の特徴 を再度説明し、確認させる。 ○それぞれの進行を、教師がリコーダーで範奏して聴かせる。 ○生徒が創作した曲を聴いて、音のつながりや演奏のしやすさなどについてアドバイスする。 ○リコーダーが苦手な生徒も一緒に演奏できるように、根音や構成音だけのパートをつくって演奏することを提案したり、速さを調整するなどの助言をしたりする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>音の進行の特徴</p> <p>同音進行…同じ音に進む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ音が続くと流れがスムーズ。 ・同じ音ばかり行き来すると退屈になる。 <p>順次進行…上下どちらかの隣の音に進む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音のつながりがなめらか。 ・演奏しやすい。 ・激しさはない。 <p>跳躍進行…3つ以上離れた音に進む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単調さから抜け出せる。 ・伸びやかな音の広がりを出せる。 </div> <p>・スムーズに演奏できるように練習する。</p>		
<p>◆和声の特徴を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもって表現しようと工夫している。 【創】</p>		

<p>15</p>	<p>○4人組になり、つくった曲をアルトリコーダーでお互いに発表し合う。</p> <p>・友だちの演奏を聴いて、どこが良かったか（リズム、ハーモニー、演奏方法など）感想を述べ合い、プリントを交換してアドバイスを記入してもらう。</p> <p>○他者の演奏や意見を聴いて学んだことから、グレード1への見通しをもつ。</p>	<p>○自分の創作や演奏に生かせるよう、楽譜を書画カメラで写し和音の流れの特徴を再確認させる。</p> <p>○旋律のリズムやハーモニー、演奏方法などにも注目して聴くように助言する。</p> <p>○それぞれの作品を確認し、さらに自分の思いが伝わるような旋律になるよう適宜アドバイスする。 (リズム、ハーモニー、演奏方法等について)</p>
-----------	--	--